

議題 2

千葉県芸術文化振興事業補助金の改善案 (令和7年度採択事業)

文化芸術振興会議での意見

- ▶ 高齢者ばかりでなく、**学生・社会人**などボリューム層であり、**活気づいている団体**を支援
年齢区分を設ける、**分野ごとに日程を変える**など、申し込みしやすくなる方法を模索
- ▶ 同じ団体・同じ事業の応募しかないので、補助金事業として行き詰まっている。
若い人にシフトするために、**応募資格を緩和(例:個人応募可など)**して、
もっと自由に応募できる仕組みにする
- ▶ 公金のため、補助金の申請団体がちゃんとした団体か、誰が会員であるか、等の
審査をしっかりと行うことは重要である

募集案内
広報等
見直し

- ▶ **造形芸術**は応募が少ないので、**グラント方式**のように、優秀者に制作資金・印刷費の提供、
ギャラリーでの発表の機会の提供などをする方が育成につながるのではないか
- ▶ 千葉市に対象者がいるかという問題はあるが、
若者が、劇団・舞台等の**スタートアップを支援**するような仕組み
(スタッフを雇う費用、劇場を借りる費用などの助成など)があると、
若者にとってはありがたいと思う
- ▶ WEB上での個展、市民ギャラリーいなげの使用など、
個展をサポートする支援があるとありがたい

補助金
制度
見直し

芸術文化振興補助金の見直し 方向性

- ▶ 芸術文化振興事業補助金の令和7年度採択事業の検討にあたり、考え方を下記のとおり整理する

- ▶ 補助金の抜本的な改正には、庁内調整などが必要であり、時間的な制約もあることから、**既存の枠組み(市民参加事業、市民育成事業、市民参加特別事業)を前提とする**
- ▶ 応募資格を緩和するなどの意見を踏まえ、**補助金がいやすくなる運用面の改善**を行う

芸術文化振興補助金の見直し ヒアリングまとめ

▶ 令和7年度採択事業の検討にあたり文化芸術活動をしている個人、団体にヒアリングを実施

	A	B	C	D	E	F
分野	演劇	伝統芸能	音楽	音楽	造形	造形
活動歴	20年以上	10年以上	50年以上	10年以内	10年以上	30年以上
補助金活用の有無	活用している	活用している	活用している	活用する予定	—	活用する予定
i 個人申請はあったらよいか	活用は難しそう	活用したい	活用は難しそう	活用見込まれるが 技量等が必要	大いに あった方がよい	あった方がよい
ii 広報 どのような周知が必要か	—	市政だより 継続してほしい	市政だより 継続してほしい	SNS 公演の機会を活用	助成制度が一元化 されたパンフレット	—
iii 補助金の枠組みについて	問題なし	問題なし	問題なし プログラムには、 一部制約もある	問題なし 市民参加特別事業の 線引きが不明瞭	問題なし 市民参加事業という 表現は要検討	問題なし
iv 申請手続きについて	事業計画書 類似の項目もある 新規書類作成の ハードル高い	今後の事業計画 単発の企画と 相反する	事業計画書 類似の項目もある	問題なし	—	—

i 個人申請はあったらよいか … 特に造形芸術において個人申請はあった方がよいという意見があり、新規の応募が見込まれる

ii 広報 どのような周知が必要か … ヒアリング実施者には、補助金のことを知らない方もおり、これまでと別のアプローチでの周知も必要
SNS、公演の機会の活用(補助金活用事業のパンフレットなどに掲載)
助成制度の情報が一元化されたパンフレットを作成し、年度当初に告知する などの意見をいただいた

芸術文化振興補助金の見直し ヒアリングまとめ

▶ 令和7年度採択事業の検討にあたり文化芸術活動をしている個人、団体にヒアリングを実施

	A	B	C	D	E	F
分野	演劇	伝統芸能	音楽	音楽	造形	造形
活動歴	20年以上	10年以上	50年以上	10年以内	10年以上	30年以上
補助金活用の有無	活用している	活用している	活用している	活用する予定	—	活用する予定
i 個人申請はあったらよいか	活用は難しそう	活用したい	活用は難しそう	活用見込まれるが 技量等が必要	大いに あった方がよい	あった方がよい
ii 広報 どのような周知が必要か	—	市政だより 継続してほしい	市政だより 継続してほしい	SNS 公演の機会を活用	助成制度が一元化 されたパンフレット	—
iii 補助金の枠組みについて	問題なし	問題なし	問題なし プログラムには、 一部制約もある	問題なし 市民参加特別事業の 線引きが不明瞭	問題なし 市民参加事業という 表現は要検討	問題なし
iv 申請手続きについて	事業計画書 類似の項目もある 新規書類作成の ハードル高い	今後の事業計画 単発の企画と 相反する	事業計画書 類似の項目もある	問題なし	—	—

iii 補助金の枠組みについて … 補助金の枠組みについては問題なしであるが、市民参加事業という表現は検討が必要である

iv 申請手続きについて … 申請の際に提出する事業計画書について類似の項目があり作成に苦勞する
初めて申請する際、申請書作成のハードルが高い

令和7年度採択事業の運用案

現行の要綱の範囲内で、**新しい個人・団体からの応募、新しい分野からの応募**を増やす
申し込みしやすいよう、手続きの簡素化を図る

▶ 応募要件の緩和

これまで対象外だった個人・団体からの応募を可能とし間口を広げるため、応募要件を緩和する。

(現行の対象) 芸術文化団体 → (改正後の対象) 芸術文化活動をする**個人、または団体**

(想定する事業) 個人で展開する市民育成事業 … 造形のワークショップを実施し、最後に作品発表する事業 等

(現行の対象) 活動の中心が市内 → (改正後の対象) **主な活動場所は市外でも可**とする

(想定する事業) 普段は市外で活動している個人・団体が、千葉市内で企画・実施する市民参加事業

▶ 広報の拡大

補助制度を知らないが、**補助事業の実施が見込める個人・団体からの応募を促す**ため、幅広く周知する。

文化施設への周知の際に、事業主催者やアーティストの目に留まるようにすることに加えて、
大学での周知なども検討する

令和7年度採択事業の運用案

▶ QAの充実

補助対象事業がわかりづらく、応募を見送っていた個人・団体からの応募を促すため、募集案内のQAを見直す

※ 既存の補助事業の枠組み(市民参加事業、市民育成事業、市民参加特別事業)は変更しない

市民参加事業 Q 市民参加とは

(現行の回答)

市民参加とは、事業の主催団体や共催団体の構成員や会員以外の、これまであまり芸術文化に関わりを持たなかった市民が、事業に出演・出品するなど、幅広い市民が事業に関わることを指します。

なお、「参加」の定義には、出演や出品以外にも、初心者向けの芸術文化体験や、これまで芸術文化にあまり関わりを持たなかった市民が、鑑賞者として興味を惹かれるような趣向・工夫を凝らすなど、多くの市民へ芸術文化を広めるものであれば、参加とみなします。

(改正後の回答 : 市民参加の例を具体化します)

舞台芸術 … 団体構成員以外の**市民が、演者として参加する**プログラムがある

創作芸術 … 作品展示の際に、団体構成員以外の**市民の作品を発表する**プログラムがある

作品展示の際に、団体構成員以外の**市民がボランティアなどで運営に携わる**

出演・出品以外 … ワークショップなど、**市民が文化芸術活動を体験する**プログラムがある

また、上記の市民参加方法について、幅広く市民が参加する工夫があると、採択に係る審査で評価対象になります

令和7年度採択事業の運用案

▶ 申請手続き(提出書類)の簡素化

申請が煩雑で、応募を見送っていた個人・団体からの応募を促すため、申請手続きを簡素化する
事業計画書の類似項目などを整理の上、様式を見直し、申請に係る負担を軽減する

事業計画書の項目の見直し

(現行の事業計画書の項目)

- 1 市民にどのような形で事業に参加をしてもらうか
- 2 幅広い市民参加を得るための工夫
- 3 市民が気軽に鑑賞する工夫、多くの鑑賞者を集める工夫
- 4 今後の事業計画や事業発展のための工夫
- 5 事業での新しい取り組みやほかの事業とは異なる点
- 6 収入確保のために力を入れる部分や広報宣伝活動の内容
- 7 補助金の活用方法及び効果
- 8 育成支援による目標設定および参加する市民の育成計画
- 9 団体の過去3年の活動実績、主要な構成員の活動歴



(事業計画書の項目を整理した案) 見直し方向性

2・3 集約 (類似の項目のため)

4 削除 (単発の企画の際に記載しづらいため)

6 見直し (『収入確保』は、内容が限定的
(集客人数の増加、集客単価の増加等)なため見直し)

令和7年度事業採択までのスケジュール 案

9月30日(月)	第2回文化芸術振興会議 議題として審議
10月	文化芸術振興会議での意見の反映等
10月下旬～11月末	公募
12月上旬	事前審査（文化芸術振興会議委員 内3名程度による事前審査）
12月中旬	第4回文化芸術振興会議 審査 採択